

みなくち 子どもの森

10月の自然

野山のおくりもの

みのりの秋、子どもの森には今年も草や木の実が色づき始めました。観察路にはツルリンドウの赤い実、アオツツラフジの藍黒色の実が秋の日に輝いています。足もとには、色も形もさまざまなきノコが顔を出します。今月は、秋の子どもの森のキノコを2種ご紹介しましょう。



オオキツネタケ

マツオウジ(ヒラタケ科)

子どもの森でもアカマツが枯れているのが目立つようになりましたが、マツの切り株などに5月頃から秋まで発生します。かさの大きさは5〜15cm、淡黄色の地に褐色の鱗片があり、見つけやすいキノコです。かさの裏は白いひだで、ひだの縁がノコギリのようにぎざぎざ



マツオウジ

ざしているのが特徴です。胞子は白色です。松やにのよう匂いがしますが、肉質のしまつた、しつかりしたキノコで、食べられることもあります。食中毒に嘔吐などの中毒をおこすことがありますので、要注意です。マツにはえる(生ふ↓おふ)ものから、マツオウジと名づけられました。

オオキツネタケ(キシメジ科)

オオキツネタケといつても、キツネタケより大きいということ、かさは3〜6cm、高さ10cmほどのキツネ色のキノコです。かさのうらは紫色を帯びた肉色のひだで、厚くて粗くてつくりものようです。柄は縦にすじ模様があり、根元は紫色の菌糸に覆われます。ア

ンモニア菌のひとつで、動物の遺体や放尿の跡に生えます。群生することが多く、食べられません。

観察路の林床でフユイチゴの実が赤く熟し始め、みのりの秋は深まっています。秋っぽいの子どもの森の小径で、いろいろな秋を探してみませんか。

みなくち子どもの森自然館

☎ 63-6712 FAX 63-0466

10月の休園日

3(月)、11(火)、
17(月)、24(月)、
31(月)

甲賀市文化協会連合会文芸欄

今回は信楽町文化協会からお寄せいただきました。

信楽冠句連盟

・ 猷入れる 今日太陽素晴らしい
・ 年の頃 風よそんなに楽しいか
・ 猷寄せて 苦勞語らぬ祖父の笑み
・ めきめきと 逸材の芽は陽に猷く
・ 報徳に 法悦の灯を恍々と
・ 猷寄せて 運命のまま今日も生く

水口 月路
辻本 時鳥
金谷 きよ
大西 千草
宇田 一晴
古谷 政峰

志がらき俳壇

・ 軒風鈴 みんな帰ってしまひけり
・ 格子出る 歩中小さく夏衣
・ 深緑が大きく迫る 運動場
・ 圧縮の 白の日傘を開きけり
・ 風鈴の 下で整ふ嬰の寝息
・ つゆ寒むの 館に住まふ佛たち
・ 夢の中 夫も着ている 夏衣
・ 絵手紙の トマトの元氣もらひけり
・ 庭師居て 缺の音や 夏衣
・ 風もうけ日差しもうけし 夏着かな
・ 虫籠を孫に持たせて 忍び足
・ 太陽の雫の様な プチトマト
・ ただ今の声を持ち来し 青葉風

杉江 猶之介
杉本 観月
城 宏衛
小谷 栄子
乾 すす
松本 美恵子
内田 和子
奥田 こと
片木 幸子
北崎 幸雲
高橋 克己
澤 しのぶ
奥田 法悦

短歌

地中海信楽グループ

・ この暑さ汗が目に入り痛みだす
・ 軍手を外し拭くけどまた汗
・ 明治神宮の杜のしじまをゴーゴーと
・ 首都のいきづき凄まじきかな
・ 地の上に戦い程の罪悪と
・ 覚えし日より早もむとせ六十年
・ 終戦を聞きし陸病の醉芙蓉
・ いまをも喜寿の眼うらにあり
・ ためらはず陶継ぎくれし孫なるや
・ 時代には添いで育てゆくなり

高井 仁波知
大西 由男
小山 平八郎
山本 とよ
谷井 かつ子

※「陸病」 陸軍病院の略

次号(11月1日号)は甲南町文化協会の予定です。